ドレン排水切替ユニット
設置工事説明書

型式：ROP-DHU

51120570　5112057000　VD-01

適用機種：RUF-TE2400/-TE2003/-TE2000/-TE1610AWシリーズ
ERUF-TE2400/-TE2003/-TE2000/-TE1610AWシリーズ
※上記の機種の排気バリエーションも含みます。

本品は、三方弁を搭載し、追いだき配管を利用してドレンを排出する機能を持つ機器の専用部品です。
上記の機種以外に使用することはできません。また、設置工事説明書に示す設置形態以外には使用しないでください。

⚠警告

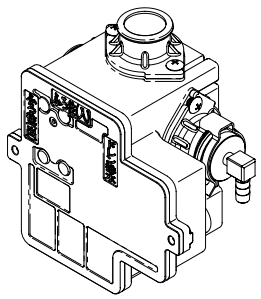
設置工事は専門の資格者が行う
- 機器本体およびこの製品の設置工事には専門の資格・技術が必要です。設置工事は必ずお買い上げの販売店に依頼し、お客様自身での設置工事は絶対に行わないでください。思わぬ事故となります。

設置工事をされる方へ
- この説明書とガスふろ給湯器本体の設置工事説明書、「ガス機器の設置基準及び実務指針（日本ガス機器検査協会刊）をよくお読みになり、正しい設置工事を行ってください。

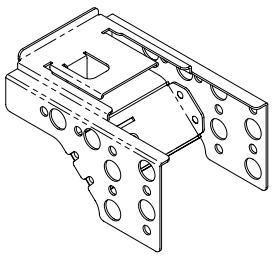
この説明書およびガスふろ給湯器本体の設置工事説明書に記載されている以外の方法による設置工事が原因で生じた事故および損傷、人身事故等は設置工事者の責任となります。
燃焼機器を設置する場所は、建築基準法や火災予防条例に定める防火処置等に適合する必要があります。また当該地区の市・町・村等の火災予防条例にも従ってください。
- 作業時はけが防止のため手袋などを着用し、手を保護してください。

1．同梱部品の確認

①排水ユニット（1個）

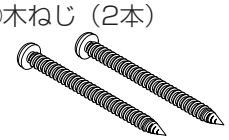


②取付金具（1個）

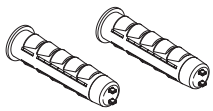


③M4ねじ（1個）

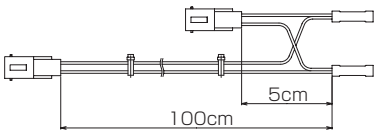
④木ねじ（2本）



⑤樹脂プラグ（2個）



⑥中継ハーネス（1個）



⑦設置工事説明書（本書）（1部）

※①②③は、組み立てられています。

2．別売部品

追いだき配管接続用部材、ドレン排水部材、壁面通線部材、露出配線部材は、下記の別売部品を使用してください。
施工状況に応じて、別売部品を選択してください。

●追いだき配管接続ジョイント部材（4種類）

・樹脂管配管用（銅配管、フレキ管を樹脂管に置き換える場合も含む）

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-W10AJ	24-5116	10A樹脂管接続セット	10A樹脂管用
ROP-W13AJ	24-5124	13A樹脂管接続セット	13A樹脂管用

・銅管、フレキ管配管用

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WCU	24-5132	G1/2ねじ接続セット	フレキ1/2用

・ゴム管配管用

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WUB	24-5140	UBゴム管接続セット	ゴム管(内径φ12)用

●配管部材（1種類）

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WGH	24-5158	ゴムホース	長さ2m

●ドレン排水部材（3種類）

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WHJ	24-5167	ドレン排水接続セット	排水管の先端部材
KOP-DUDH-1-3P	24-5175	パイプホルダ-1	排水管(7A樹脂管)固定用
KOP-DUDH-2-3P	24-5183	パイプホルダ-2	

●壁面通線部材（1種類）

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WB	24-5191	ブッシング	壁面通線穴閉止用

●露出配線部材（1種類）

型式	品名コード	部 品 名	備 考
ROP-WRS	24-5205	リモコンスペーサー	露出配線用

3．現地調達部品

- コーキング剤（シリコンシーラント等）
- 速乾性接着剤（セメダインスーパー等）
- 7A樹脂管、銅管、フレキ管、樹脂管
- ビニールテープ、タイラップ、モール
- 樹脂管用ソケット

4．取付工事前の確認

取り付け場所の確認

- 本品は、追いだき配管（往き側）を利用し、機器内に溜まった中和処理済のドレン水を浴室内に排出するための部材です。
- 施工前に、追いだき配管の往き側を確認してください。**[本品は、追いだき配管の往き回路に取り付ける必要があります]**
- 排水ユニットを取り付ける空間を確認します。
  浴そうのエプロンの左右どちらかの側面に下記の条件を満たす空間がある場合に、排水ユニットを取り付けることができます。
  ＊浴槽と壁面との距離が80mm以上、高さ300mm、奥行き300mm程度の空間がある。（図1）
  ＊排水ユニット（および取付金具）が、エプロンと干渉しない。
  ＊追いだき配管の取り回しができる。

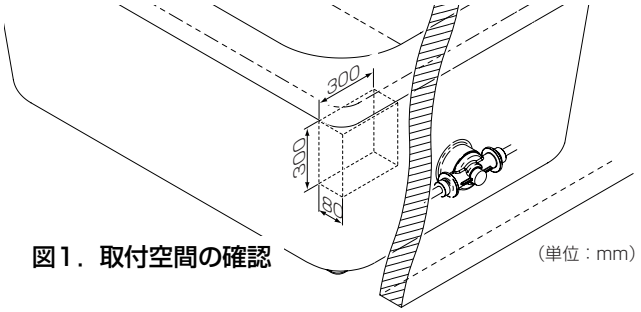
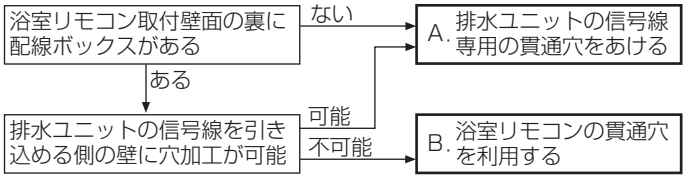


図1．取付空間の確認

- 排水ユニットは、水のかからない場所へ設置してください。排水ユニットに水が浸入したり、冠水するおそれのある場所には設置しないでください。
- 信号線を浴槽の反対側まで配線する場合はエプロン内で処理してください。天井裏への配線は行わないでください。
- ユニットバスの近傍に電線管や配線ボックスがある場合は、以下のフローで排水ユニットの信号線施工方法を検討してください。



取り付け方向の確認

- 排水ユニット信号線取り出し部が上に向くような設置はしないでください。信号線の取り出し部に結露水が溜まり、故障の原因となります。（図2）

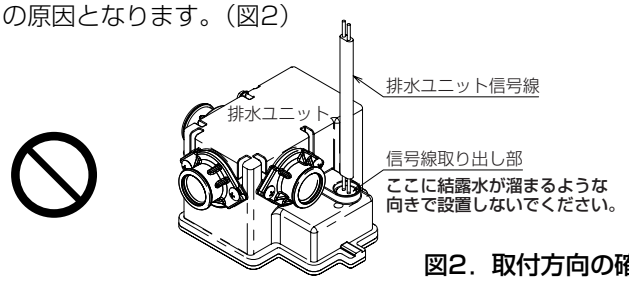
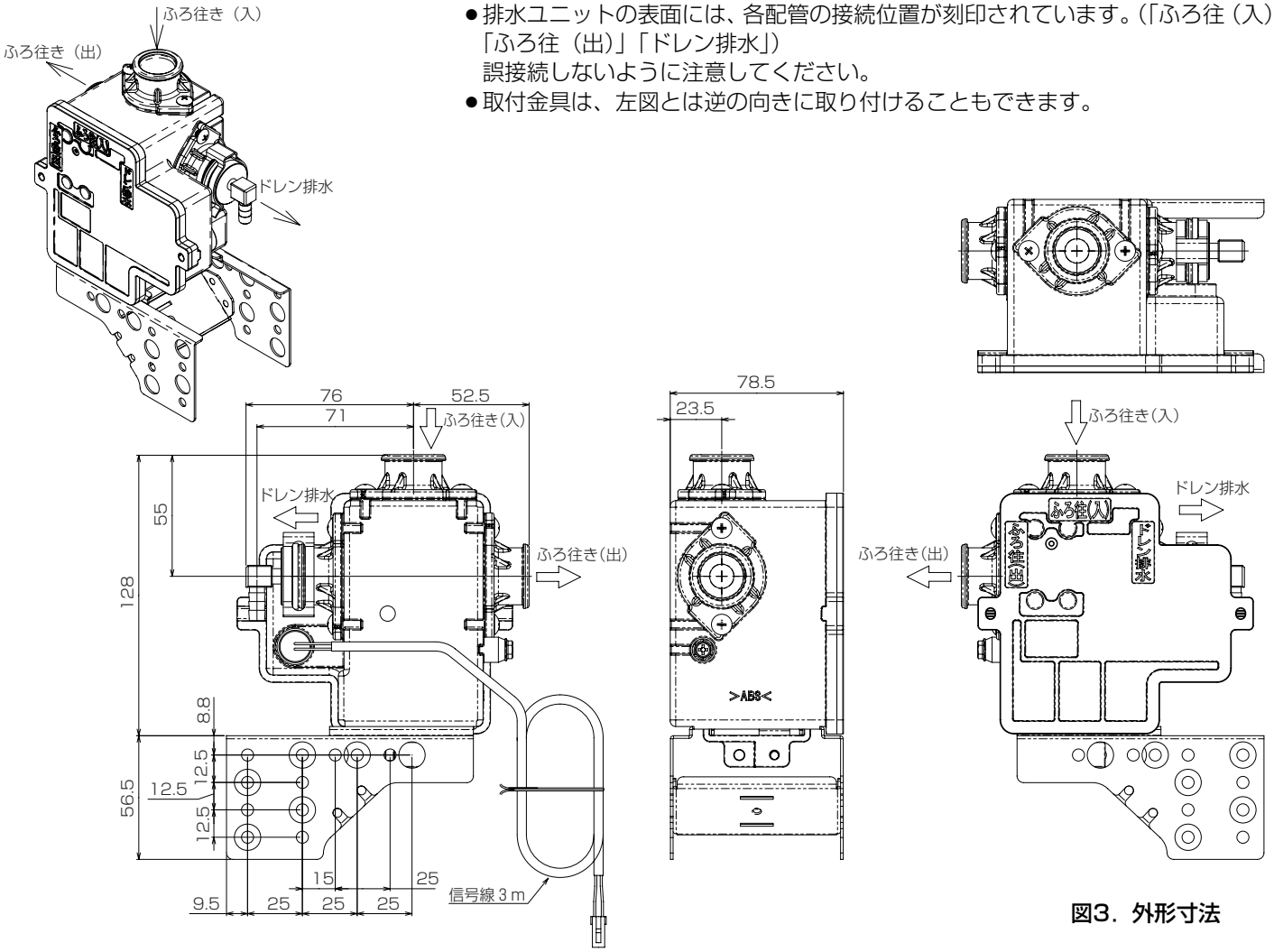


図2．取付方向の確認

- 上記以外の向きであれば、360° どの向きでも（上下左右表裏問わず）取り付けることができます。

5．外形寸法図（mm）



- 排水ユニットの表面には、各配管の接続位置が刻印されています。（「ふろ往（入）」「ふろ往（出）」「ドレン排水」）
  誤接続しないように注意してください。
- 取付金具は、左図とは逆の向きに取り付けることもできます。

図3．外形寸法

6．標準設置図・信号線の接続概念図

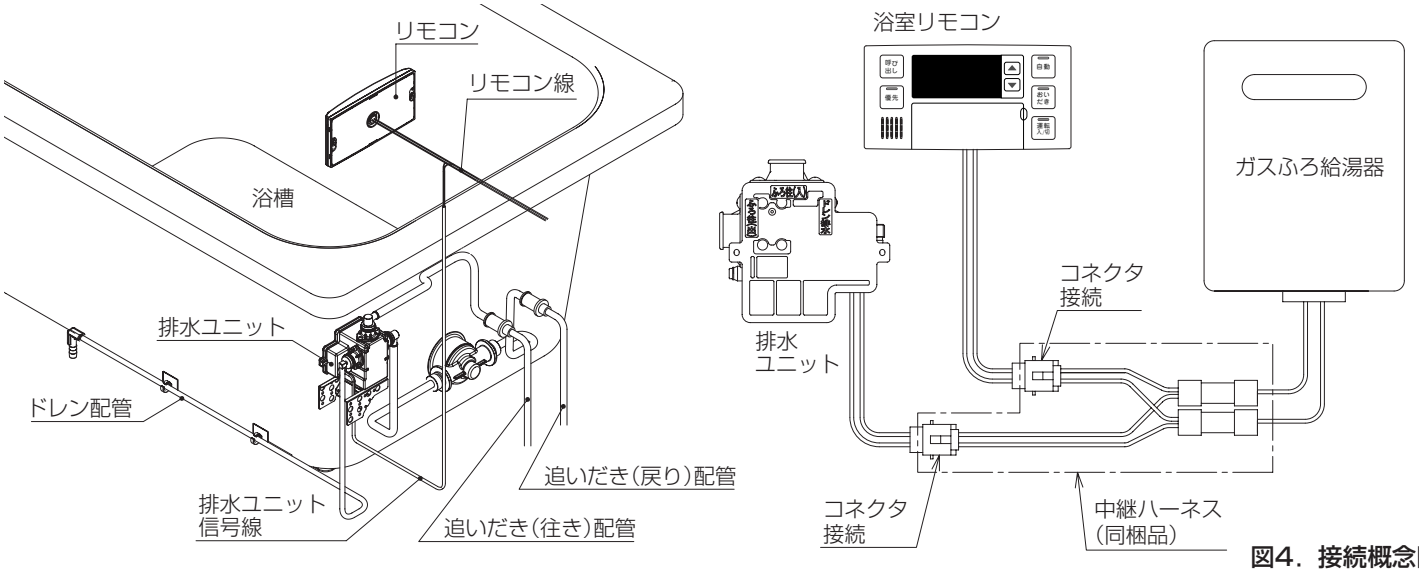


図4．接続概念図

※排水ユニットをリモコン設置面と異なる面に取り付ける場合、排水ユニットの信号線（3m）はエプロン内にて引き回し、リモコンを設置した壁面側で中継ハーネスの接続を行ってください。
排水ユニットの信号線（3m）を天井に引き回してリモコン設置面側に配線するのは避けてください。

7．排水ユニットの取り付け

●浴槽手前側にUB貫通金具が取り付けられているなどで壁面への取り付けに制約が出る場合は、反対側の壁面に取り付けてください。

排水ユニットの取り付け準備

（1）排水ユニットの設置場所によって、取付金具の向きを逆にした方が取り付けやすい場合は、下記の①～③の方法で取付金具を付け替えてください。

※出荷時の状態で取り付けることができる場合は、手順（2）に進んでください。

① M4ねじ1本を外し、取付金具をスライドさせて取り外します。

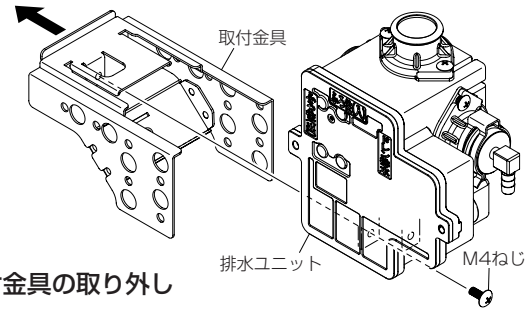


図5．取付金具の取り外し

② 取付金具の向きを逆にし、排水ユニットに取り付けます。
③ M4ねじで、取付金具と排水ユニットを仮固定してください。

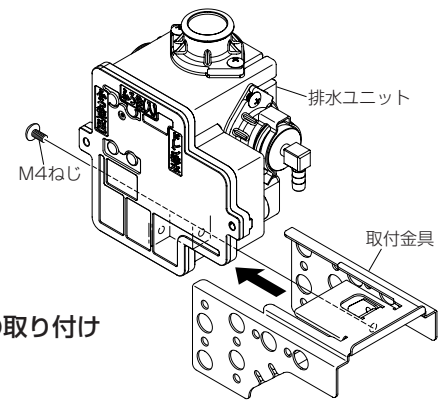


図6．取付金具の取り付け

（2）排水ユニットを浴室壁面にあて、位置決めをします。

① 排水ユニットの上端から浴槽カウンター部までに100mm以上の空間を設けます。
② ねじ固定位置（2カ所）にマジック等で印を付けます。（取付金具のφ5.5穴部）

※浴そうのエプロン縁幅（奥行）に、排水ユニットと取付金具が接触しないようにしてください。（図7）

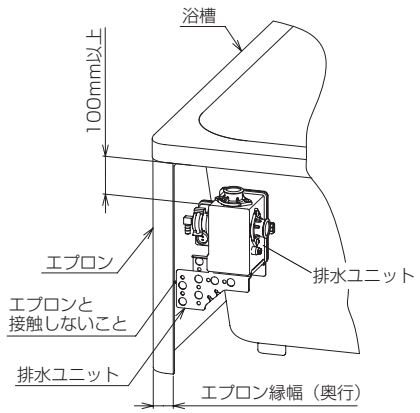


図7．取付空間

印をつける穴の例

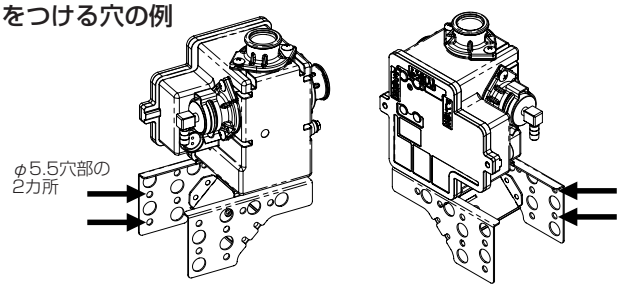


図8．ねじ固定位置の印付け部

※取り付けのしやすい位置の穴を2カ所選択してください。

（3）印をつけた位置にφ5の下穴をあけ、速乾性接着剤（セメダインスーパー等、現地調達品）を入れ、樹脂プラグ（同梱品）を埋め込み、固定します。（図9）
※樹脂プラグを固定しないとプラグが空回りするおそれがありますので、必ず固定してください。
※シンナーを含む接着剤を使用すると樹脂プラグが溶解します。

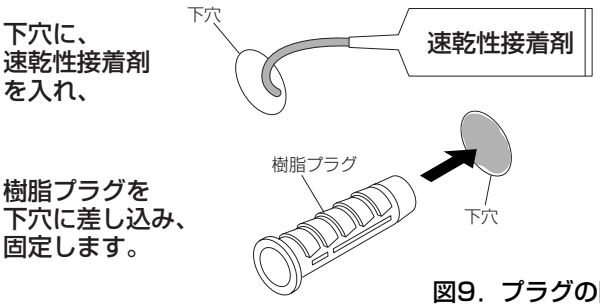


図9．プラグの固定

（4）樹脂プラグ内に、シリコンシーラント（現地調達品）を充填します。（図10）

図10．シリコンシーラントの充填

中継ハーネスの接続

- 排水ユニットの電力や信号は、リモコン線を通じてガスふろ給湯器から供給します。このため、排水ユニットの信号線は、リモコン線と分岐接続してください。
- ガスふろ給湯器やリモコンの設置工事説明書も併せてご覧ください。
- ガスふろ給湯器の電源プラグを抜いてください。（分電盤の専用ブレーカーを「切」にしてください）
- 電源を入れたまま信号線を接続すると電装品を破壊するおそれがあります。
- 信号線の配線方法には、「**A．排水ユニットの信号線専用の貫通穴をあける方法**」と「**B．浴室リモコンの貫通穴を利用する方法**」の2種類があります。
「B」は、浴槽のカウンターやエプロンから浴室リモコンの間に配線が露出します。浴室や建築躯体の状態や外観を考慮し、お客様と相談の上で配線方法を選択してください。

【A．排水ユニットの信号線専用の貫通穴をあける方法】

- 排水ユニットの信号線専用の貫通穴を、新たに浴室の壁面にあけます。
- 貫通穴閉止用に別売品のブッシング（ROP-WB）が必要です。

（1）浴室リモコンを設置する側の壁面にホルソーでφ30の穴をあけます。（図11）
※穴の位置および壁面は、下記の条件を満足してください。
・浴室リモコン用貫通穴から下方に直線距離で100cm以内
・循環アダプターから上方の位置であること
・浴槽のエプロンの内側で穴あけ加工がしやすいこと
・壁面に貫通穴加工ができること

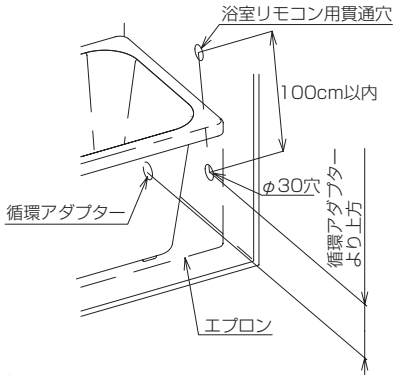


図11．信号線専用貫通穴加工位置

（2）ガスふろ給湯器のリモコン線（浴室リモコン用）を中継ハーネス（同梱品）と接続します。（圧着端子で2カ所カシメる）

（3）中継ハーネスのリード線の短い側のコネクタと、浴室リモコンのリモコン線コネクタを接続します。

（4）中継ハーネスのリード線の長い側のコネクタを、針金等を用いて浴室壁面と外壁との間に通します。

（5）手順（1）であけた貫通穴から浴室内に引き込みます。
※ハーネスが、壁面内に戻らないよう、端を壁面にテープで仮止めしてください。

（6）浴室リモコンを、浴室の壁面に取り付けます。リモコンの取り付け方法については、リモコンおよびガスふろ給湯器の設置工事説明書も参照してください。

※排水ユニットと取付金具は、まだ壁面に固定しません。

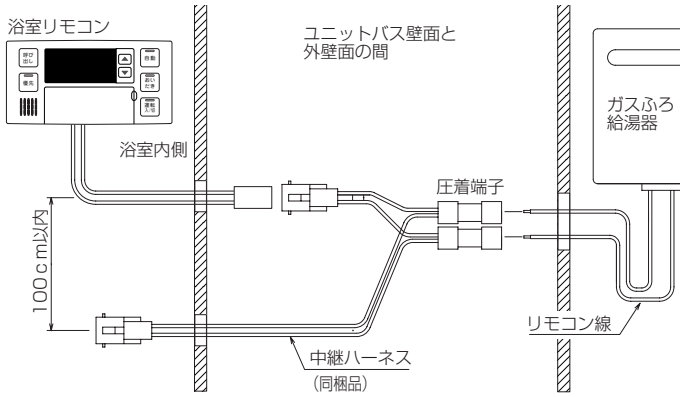


図12．専用貫通穴での信号線通線

【B．浴室リモコンの貫通穴を利用する方法】

- 排水ユニットの信号線を、浴室リモコンの信号線の貫通穴から通線します。
- 壁面に貫通穴加工ができない場合、この方法で対応できます。
- 別売品のリモコンスペーサー（ROP-WRS）が必要です。

（1）ガスふろ給湯器から配線されている浴室リモコン用のリモコン線を、中継ハーネスと接続します（圧着端子で2カ所カシメる）。
※作業時に、ハーネス類を壁面内部に落下させないように注意してください。

（2）中継ハーネスの短い方のリード線を、リモコンスペーサー（別売品）の丸穴に通し、その先端のコネクタと、浴室リモコンのリモコン線コネクタを接続します。

（3）中継ハーネスの長い方のリード線も、同じ壁面の貫通穴から浴室内に引き込みます。

※ハーネスが、壁面内に戻らないよう、端を壁面にテープで仮止めしてください。

※リモコンスペーサーおよびリモコン本体、排水ユニット、取付金具は、まだ壁面に固定しません。

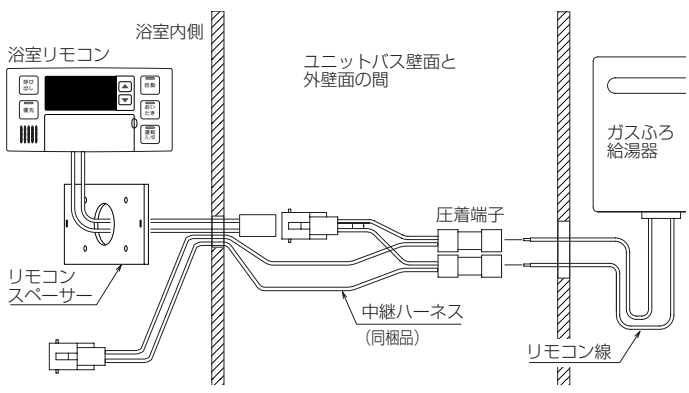


図13．浴室リモコンの貫通穴での信号線通線

追いだき配管の往き回路側の確認

- 本品は、追いだき配管（往き側）を利用し、機器内に溜まった中和処理後のドレン水を浴室内に排出します。
  このため、施工前に往き側の確認が必ず必要です。
- 排水ユニットは、追いだき配管の往き側に接続します。戻り側は接続しません。
- 追いだき配管のどちらが往き側なのか分からない場合は、下記の方法で確認してください。
- 往き側が分かる場合は、この作業は省略できます。
- リモコンの操作で、往き側のみに通水します。

（1）ガスふろ給湯器の電源プラグを抜き（分電盤の専用ブレーカーを「切」）、ガスの元栓を閉じます。（機器は燃焼させません）

（2）循環アダプターからフィルターや配管を外します（通水時に往き配管を確認しやすい状態にします。

（3）中継ハーネスのコネクタと、排水ユニットの信号線のコネクタを接続します。
確認作業時に追いだき配管から水が出ますので、コネクタ部に水がかからないよう、ポリ袋をかぶせ、保護してください。（図14）

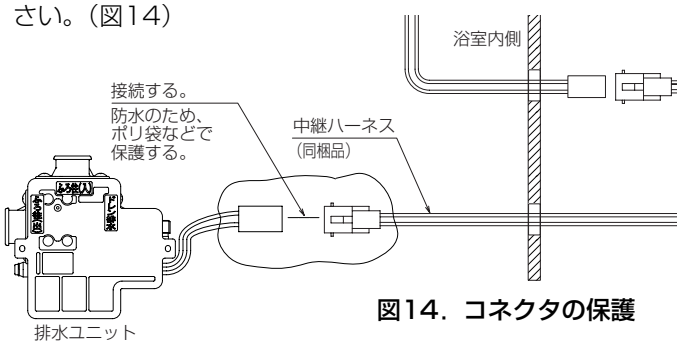


図14．コネクタの保護

（4）ガスふろ給湯器の電源プラグをコンセントに差し込みます（分電盤の専用ブレーカーを「入」）。
※リモコンの運転スイッチは「切」のままで、以下の操作をします。

（5）設置するリモコンにより操作方法が異なります。

- 浴室リモコンBC-120Vは、▼スイッチを1秒以上押しながら、音量スイッチを押します。（図15）
- 浴室リモコンBC-100Vは、▼スイッチを1秒以上押しながら、選択スイッチを押します。

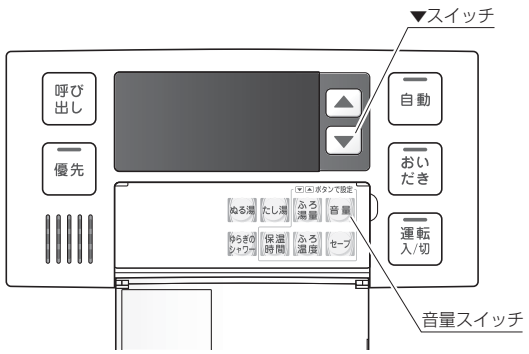


図15．▼スイッチと音量スイッチの同時押し（図は、BC-120Vの例）

（6）リモコンの時刻表示部に「AAA」と表示し、しばらくすると往き側の配管から水（約6リットル）が出てきます。

（7）水の出てきた配管が“往き側”です。
配管に目印をつけ、後の作業で確認できるようにしてください。
途中で排水を終了させるには、リモコンの運転スイッチを押します。

（8）確認作業が終了したら、ガスふろ給湯器の電源プラグを抜き（分電盤の専用ブレーカーを「切」）、排水ユニットの信号線と中継ハーネスのコネクタのみ取り外してください。

取付金具の固定

（1）排水ユニットから取付金具を取り外します。

（2）取付金具を「排水ユニットの取り付け準備」の手順（3）の下穴位置に合わせ、木ねじ2本（同梱品）で壁面に固定します。

追いだき配管の往き回路に排水ユニットを接続する

※追いだき配管の戻り側には接続しないでください。

（1）排水ユニットの「ふろ往（入）」「ふろ往（出）」の接続口に、別売の追いだき配管接続用ジョイントをクイックファスナで取り付けます。
※追いだき配管の種類（樹脂管・銅管・フレキ管・ゴム管）でジョイントが異なります。
適切なジョイントを選択してください。

【a．樹脂管接続の場合】
（銅管またはフレキ管接続を樹脂管接続に変更する場合を含む）

10A樹脂管接続セット（ROP-W10AJ）
13A樹脂管接続セット（ROP-W13AJ）

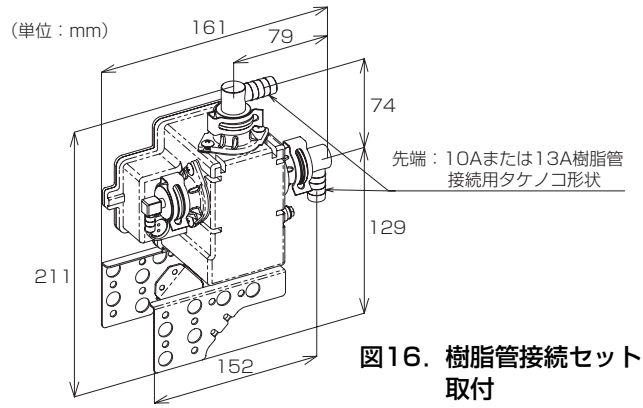


図16．樹脂管接続セット取付

【b．銅管、フレキ管接続の場合】

G1/2ねじ接続セット（ROP-WCU）

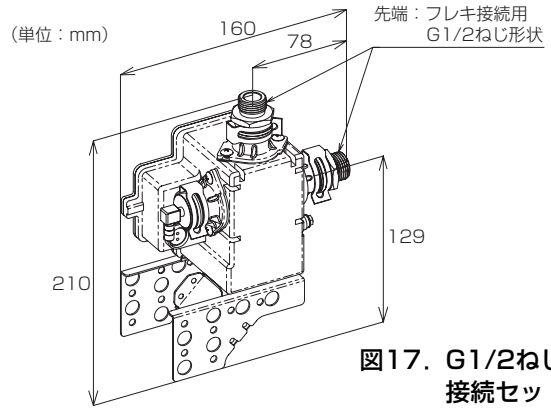


図17．G1/2ねじ接続セット取付

【c．ゴム管接続の場合】

ゴム管接続セット（ROP-WUB）

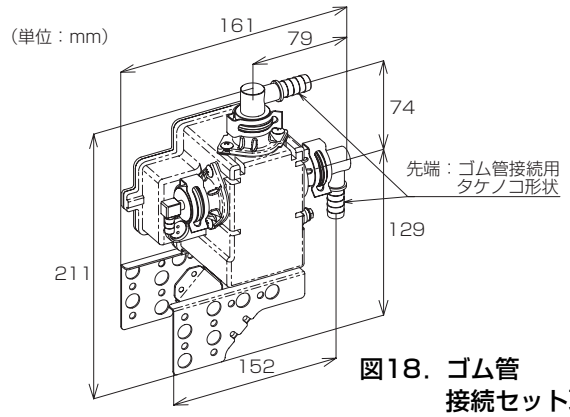


図18．ゴム管接続セット取付

(2) 壁面の取付金具に、排水ユニットを仮固定します。

(3) 排水ユニットの接続位置に合わせ、追いだき配管の往き側を加工します。配管によって加工方法が異なります。

※既設の配管だけでは長さ不足、既設配管に経年劣化が見られる場合は、新しい配管を使用してください。

・銅管、フレキ管、樹脂管は現地調達品です。

・ゴムホースは、別売のゴムホース（ROP-WGH）を使用します。

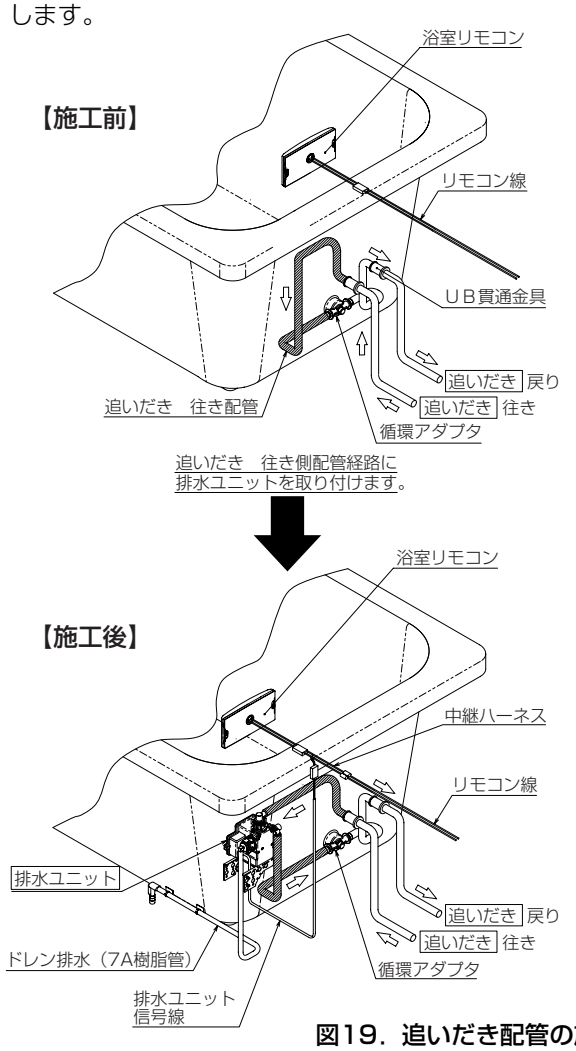


図19．追いだき配管の施工例

【a．樹脂管接続の場合】
（銅管またはフレキ管接続を樹脂管接続に変更する場合を含む）

- 樹脂管接続セット（別売品）、樹脂管（現地調達品）を使用します。
- 既存の追いだき配管が銅管やフレキ管の場合に、それを樹脂管に変更するときは、樹脂管接続セット以外にIHチョクジュン10Bまたは13A（現地調達）を使用します。

① 別売の樹脂管接続セット（ROP-W10AJまたはROP-W13AJ）を排水ユニットに取り付けます。

② 追いだき配管の往き側をUB貫通金具から排水ユニットの「ふろ往（入）」、および排水ユニットの「ふろ往（出）」から循環アダプターの経路になるように、適切な長さに合わせ、樹脂管の切断位置を決めます。

③ 取付金具から仮組みした排水ユニットを取り外します。

④ 手順②で決めた位置で樹脂管を切断します。

⑤ 排水ユニットの「ふろ往（入）」部と「ふろ往（出）」部のジョイントを取り外し、切断した樹脂管をバンド（接続セットに同梱）で固定します。

⑥ 取付金具に排水ユニットを差し込み、仮固定します。

⑦ 樹脂管の付いたジョイントを排水ユニットにクイックファスナで固定します。

⑧ 排水ユニットをM4ねじで取付金具にしっかりと固定します。

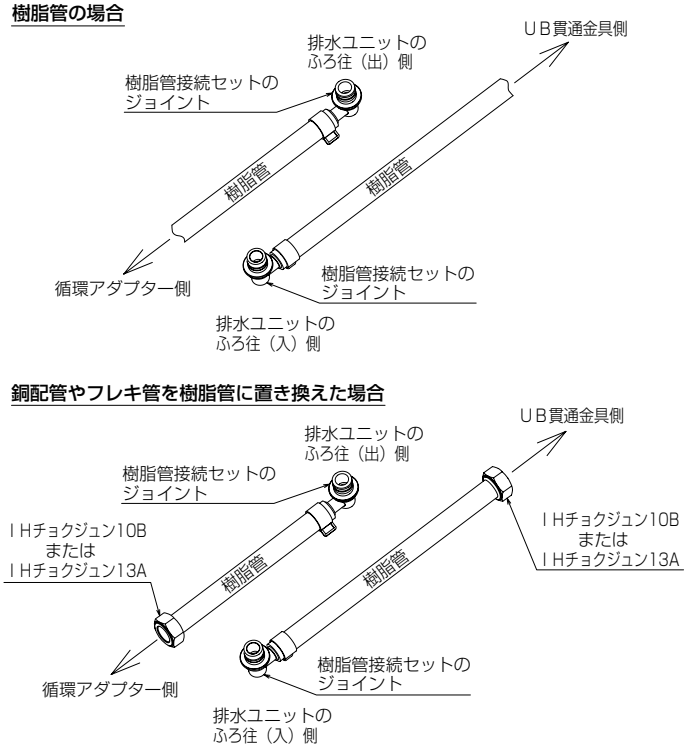


図20．樹脂管とジョイント取付

【b．銅管またはフレキ管接続の場合】

- G1/2ねじ接続セット（別売品）、銅管およびフレキ管（現地調達品）を使用します。

① 別売のG1/2ねじ接続セット（ROP-WCU）を排水ユニットに取り付けます。

② 追いだき配管の往き側をUB貫通金具から排水ユニットの「ふろ往（入）」、および「ふろ往（出）」から循環アダプターの経路になるように、排水ユニットを取り込み、フレキ管（現地調達）で接続します。

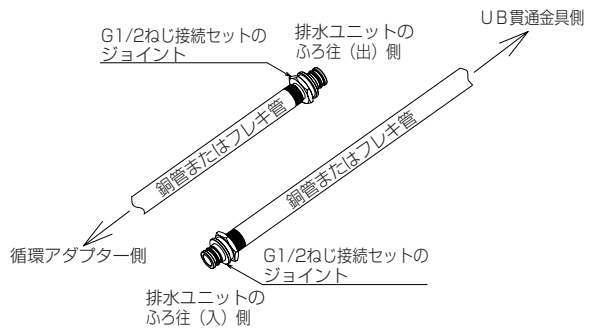


図21．銅管またはフレキ管とジョイント取付

【c．ゴム管接続の場合】

- 別売のゴム管接続セット（ROP-WUB）、ゴムホース（ROP-WGH）を使用します。

① UB貫通金具から循環アダプターまで接続されている追いだき配管往き側の循環アダプター側のみを取り外します。

② 往き側のゴム管を排水ユニットの「ふろ往（入）」ジョイント部にあてがい、飲み込み深さに合わせ、テープ等で印をつけます。（図22）

③ 取付金具から仮組みした排水ユニットを取り外します。

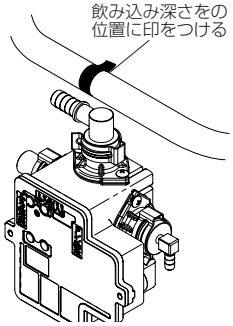


図22．切断位置の印付け

④ 往き側のゴム管を取り外し、手順②で印をつけたところでゴム管を切断します。

⑤ 排水ユニットの「ふろ往（入）」部、および「ふろ往（出）部のジョイントを取り外し、切断したゴム管をそれぞれのジョイントにバンド（接続セットに同梱）で固定します。（図23）

⑥ 取付金具に排水ユニットを差し込み、仮固定します。

⑦ ゴム管の付いたジョイントを排水ユニットにそれぞれクイックファスナで固定します。

⑧ 排水ユニットをM4ねじで取付金具にしっかりと固定します。

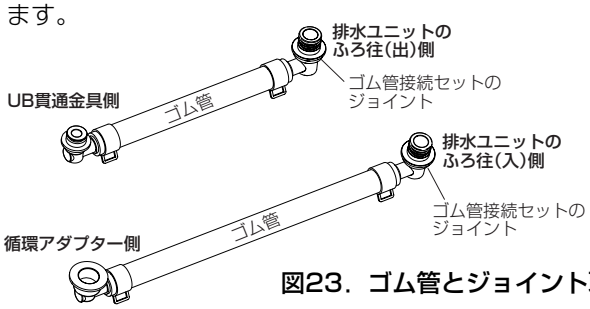


図23．ゴム管とジョイント取付

排水ユニットの固定

（1）排水ユニットを、固定金具にM4ねじ1本でしっかりと固定してください。

ドレン配管の接続

- 別売品のドレン排水接続セット（ROP-WHJ）およびパイプホルダ-1（ROP-DUDH-1-3P）、パイプホルダ-2（ROP-DUDH-2-3P）が必要です。
- ドレン配管には、7A樹脂管（現地調達）を使用します。

■ ドレン配管上のご注意

- ドレン配管の配管径を、途中で小さくしないでください。細い配管を使うと、配管の詰まりや排水不良の原因となります。
- ドレン配管の先端は、大気開放とし、水に浸からないようにしてください。
  また、ゴミ詰まりがないように注意してください。
- ドレン配管は下り勾配とし、配管内にドレン水が留まらないようにしてください。
- 配管の最小曲げ半径などの施工条件や方法は、ガス会社の施工指針に従ってください。
- 凍結のおそれがある場合は、配管に保温材を巻くなどの処理を行ってください。

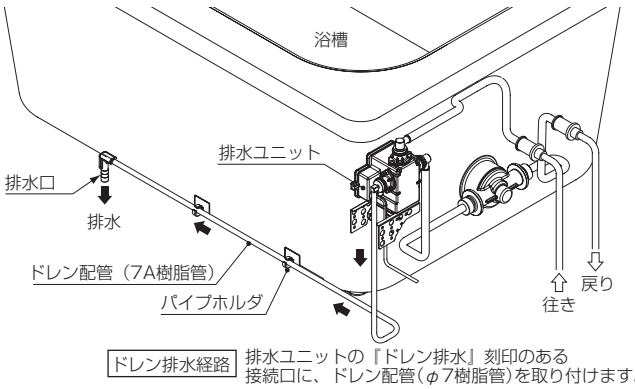


図24．ドレン配管概念図

（1）排水ユニットの「ドレン排水」接続口から、ジョイントを取り外します。（クイックファスナ1個）

（2）取り外したジョイントに、7A樹脂管（現地調達）を差し込み、バンド（別売のドレン排水接続セットに同梱）で固定します。

（3）排水ユニットの「ドレン排水」接続口に、ジョイントを元通り取り付けます。（クイックファスナ1個）

（4）7A樹脂管を浴槽排水口まで導いて排水ユニットから浴槽排水口までの配管の取り回しを決めます。

（5）浴槽排水口の真上で7A樹脂管を切断します。

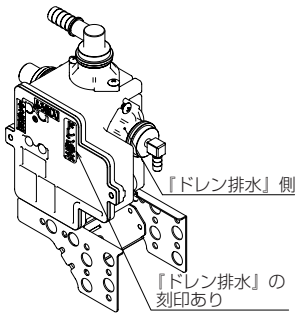


図25．ドレン排水接続部

（6）7A樹脂管の先端に排水口（別売のドレン排水接続セットに同梱）を取り付け、バンド（別売のドレン排水接続セットに同梱）で固定します。

（7）7A樹脂管を浴槽の側面やエプロンの内側に別売のパイプホルダ（別売品）で固定します。（パイプホルダ-2は切断し、長さ調整可能）

※先端の排水ジョイントが、必ず浴槽排水口の真上になるように位置を調整してください。
※間接排水ができるように調整してください。
※先端部が暴れないように樹脂管の先端部近くを固定してください。
※必ず2カ所以上で固定してください。
※パイプホルダを浴槽の側面などに接着する前に、離型剤などの接着面の汚れを、十分取り除いてください。

（8）7A樹脂管をパイプホルダで固定した後、パイプホルダ脱落予防のため、パイプホルダの固定面の4辺をコーキングします。

排水ユニットの信号線の接続

- 排水ユニットの固定および、追いだき配管、ドレン配管の接続が完了していることを確認してください。
- 4ページの「中継ハーネスの接続」の作業が、【A．排水ユニットの信号線専用の貫通穴をあける方法】か【B．浴室リモコンの貫通穴を利用する方法】かで、排水ユニットの信号線接続の方法が異なります。

■ 中継ハーネスの接続が、【A．排水ユニットの信号線専用の貫通穴をあける方法】の場合

（1）排水ユニットの信号線に別売のブッシング（ROP-WB）を通し、貫通穴から引き込んだ中継ハーネスとコネクタとを接続します。

※コネクタ接続部は、壁面内部に入れてください。
※排水ユニットの信号線が余る場合は、ビニールテープやタイラップ（現地調達）で束ね、エプロン内側の水のかからない所に固定、または壁面内部に入れます。
※貫通部の配線は、信号線を伝わって水分が壁面内部に入らないように、浴室内側に下り勾配にするか、トラップを設けます。

（2）貫通穴にブッシングを取り付けます。
防水のため、ブッシングの外周部および内部をしっかりとシリコンシーラント（現地調達）でコーキングしてください。

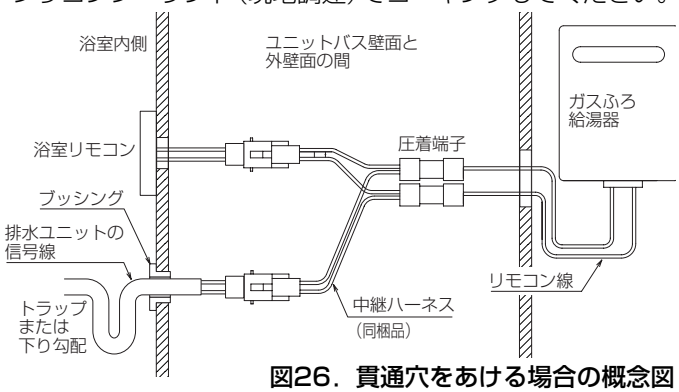


図26．貫通穴をあける場合の概念図

■ **中継ハーネスの接続が、【B．浴室リモコンの貫通穴を利用する方法】の場合**

（1）排水ユニットの信号線のコネクタと中継ハーネスをコネクタ接続します。

（2）貫通穴から壁面内部にコネクタ接続部を入れ、さらに、排水ユニットの信号線の被覆のある部分を貫通穴から壁の中に入れます。（図27）

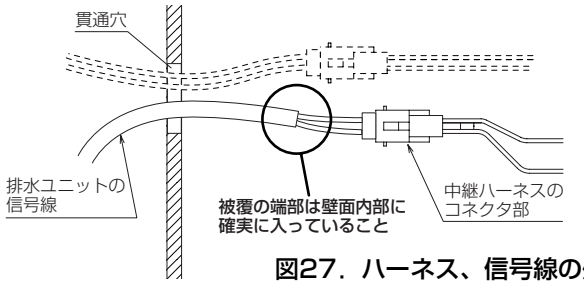


図27．ハーネス、信号線の処理

※排水ユニットの信号線が余る場合は、ビニールテープやタイラップ（現地調達）で束ね、エプロンの内側の水のかからないところに固定、または壁面内部に入れます。

（3）リモコンスペーサーの裏の溝に、排水ユニットの信号線をはわせて、リモコンスペーサーを壁面に木ねじ（リモコンスペーサーに同梱）で固定します。

信号線がリモコンスペーサーからはみ出して、壁面とリモコンスペーサーに挟まれることのないように注意してください。

※排水ユニットの信号線は浴槽カウンター部やエプロン部の隙間や通線用貫通穴をあけて通線し、隙間をコーキングしてください。

（4）浴室リモコンを、浴室の壁面に取り付けます。
リモコンの取り付け方法については、リモコンおよびガスふろ給湯器の設置工事説明書も参照してください。

（5）浴室リモコンとリモコンスペーサーの隙間、およびリモコンスペーサーと壁面の隙間を、全周コーキングします。

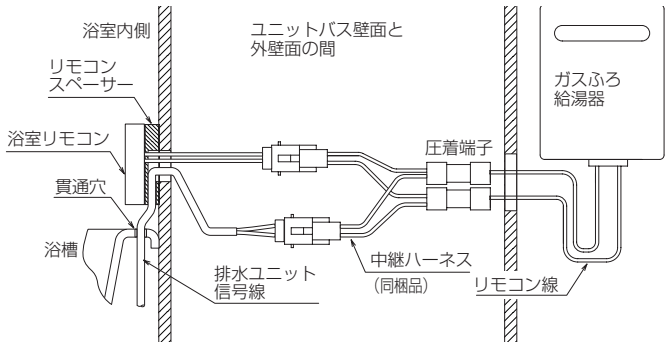


図28．浴室リモコンの貫通穴を利用する場合の概念図

8．取付工事後の確認

●取付工事が終了しましたら、下記の項目を点検してください。

■ **排水ユニットの取付位置**
- ●水がかかったり、冠水のおそれがあるところに取り付けられていませんか？

■ **排水ユニットと追いだき配管の接続（往き側）**
- ●バンドやクイックファスナのつけ忘れや緩みはありませんか？
- ●ふろ往（入）、ふろ往（出）、ドレン排水の接続の誤配管はありませんか？

■ **排水ユニットや取付金具の固定**
- ●ねじや、木ねじのつけ忘れ、緩みはありませんか？

■ **ドレン配管**
- ●ドレン配管の先端は、間接排水になっていますか？
- ●ドレン配管は下り勾配になっていますか？
- ●ドレン配管につぶれはありませんか？
- ●ドレン配管をパイプホルダで確実に固定していますか？

■ **信号線の接続**
- ●圧着端子やコネクタ接続で、はずれ、緩みはありませんか？

■ **コーキング処理**
- ●リモコンやリモコンスペーサー、ブッシングやパイプホルダなどの周囲をコーキング処理しましたか？

■ **追いだき配管の気密検査**

※気密検査に適した三方弁の位置にする必要があるため、下記の①～⑤の操作のあと、気密検査を行ってください。

① ガスふろ給湯器の給水元栓を閉じます。
② 電源プラグをコンセントに差し込んでください。（分電盤の専用ブレーカーを「入」にしてください）
③ リモコンの運転スイッチが「切」になっている（表示画面が消灯している）ことを確認してください。
④ 浴室リモコンBC-120Vは、▼スイッチを1秒以上押しながら、音量スイッチを押します。
浴室リモコンBC-100Vは、▼スイッチを1秒以上押しながら、選択スイッチを押します。
⑤ リモコンの時刻表示部に「AAA」と表示されたら、運転スイッチを押します。（AAA表示が消灯していること）

- ●気密検査は使用する循環アダプター専用の漏水検査治具を使用してください。
- ●追いだき配管の機器側にストップバルブと加圧ポンプを取り付け、水圧を加えた後、水漏れのないことを確認します。
  - ・銅管の場合…水圧100kPa（1.0kgf/cm²）：5分間
  - ・樹脂管の場合…水圧150kPa（1.5kgf/cm²）：30分間

9．試運転

- ●**ガスふろ給湯器の設置工事説明書に従って、《自動湯はり試運転モード》での試運転を行います。この試運転は、誤配管を防止するために必ず行ってください。**

※試運転は必ず、浴槽に水のない状態で行ってください。

※《自動湯はり試運転モード》については、ガスふろ給湯器の設置工事説明書の「試運転および試点火」の項目を参照してください。

- ●ふろ試運転を行うと、排水ユニットと追いだき配管の接続や、信号線の接続状況を確認できます。
エラーが発生せず、接続状況が正常な場合は、試運転の完了を音声でお知らせします。
- ●試運転を含め、すべての設置工事が終了したら、浴槽のエプロンを取り付けてください。
- ●試運転後、配管や機器内に残った水は、お客様が使用されるまでの期間放置しますと凍結して機器が破損する恐れがありますので、完全に水を抜き取ってください。

※水抜きの手順については、ガスふろ給湯器の設置工事説明書の「試運転後の水抜き」の項目を参照してください。

※水抜き後は、水抜き線を元通りに取り付けます。

※給水元栓やガス栓を閉じ、ガスふろ給湯器の電源プラグを抜いて（分電盤の専用ブレーカーを「切」にして）ください。